飯田龍太記念俳句大会（子どもの部）入賞者

廣瀬直人／選

特選（子どもの部）	氏名
1 オニヤンマ大きな空へ舞い上がる	黒川　宗哲
2 夕暮れの雲の切れ目に赤とんぼ	窪　秀幸
3 ぶらんこでたちのりしたらやまみえた	さいぐさみほ

秀作（子どもの部）	氏名
1 夏になる小さな悪魔動き出す	笠原　健志
2 夏の空フランスパンがおいしそう	古やのぞみ
3 夏の昼セミの鳴き声だけひびく	坂本　幸貴
4 夏休みひざしが強い海の空	窪田　優輝
5 暑い日は風にあたって空を見る	堀内　将太
6 赤トンボタやけ空ににあう色	向山　慶
7 ひまわりはいつもたいようあびている	加藤　未来
8 夕焼けがわたしの顔を赤くする	小松　史奈
9 冬の夜しんしん光る星の空	川崎　微佑
10 夕焼の空を見ながら帰ろうか	早川　果歩

入選（子どもの部）	氏名
1 川へまた帰りたいのかめだかたち	齋藤　龍一
2 友と行くトンボ飛びかう田んぼ道	清水　照雅
3 風が吹きかれ葉といっしょにかけっこだ	輿石　彩華
4 金色の草原の上赤とんぼ	神山　結
5 赤トンボまっかな夕日ときえていく	岡崎　美優
6 ひまわりはぐんぐんのびて背が高い	長田　佳奈
7 キラキラと日ざしまいこむ春の海	稲山　祐衣
8 秋近しかみなりがなるにじもでる	大堀　亜美
9 夏休み家族で笑う海の家	芦澤　優也
10 雪だるま富士山みたい動かない	小林　拓也
11 立秋の二つのきのこの背比べ	深澤　友希
12 おちばまういのししはしるむらのみち	さいぐさたつや
13 すず虫がなきだしているにぎやかだ	石山のりひろ
14 帰り道ピカピカの羽赤とんぼ	内藤　亜美
15 赤トンボみんなで一しょにおにごっこ	山本けん斗
16 秋の夜いろんな虫が鳴いている	橘田　結花
17 カブトムシなつのよぞらをとびまわる	古屋聡一朗
18 紅葉が寒さとともにやってくる	前嶋みさき

入選（子どもの部）	氏名
19 夏休み家族みんなで花火見る	小林亜由美
20 夏まつりくじで当たった長ぼうき	鶴田　愛花
21 大雨の中にぽつんとレンゲ草	相川　航汰
22 もみじの葉ゆらりゆらりとおちてくる	大芝　光貴
23 夕やけにてらされ空は黄金色	仲村　直純
24 ひまわりがぐんぐんのびてせいくらべ	岩間　尚哉
25 秋の空夕日が照らし赤くなる	芦澤康太朗
26 秋の山色とりどりのカーテンだ	霜村　瑞歩
27 夏の空ピカッと光って空われた	石巻　貴羅
28 コスモスがすこしの風にゆれている	田中　慧
29 天高く南アルプスせいくらべ	齋藤　研太
30 あかとんぼゆう日にむかいまっかっか	清水　菜緒
31 教室をひとめぐりして赤とんぼ	小田切有咲
32 秋空にまっかな太陽しずみゆく	北原未来子
33 雨上がり峰から峰に虹の橋	塩野入　淳
34 夏の夜一直線に流れ星	中村　京介
35 ぼくたちを入道雲がながめてる	輿石　真璃
36 風鈴の短冊風と話してる	田中　志奈

入選（子どもの部）	氏名
37 青空に飛行機雲がうかぶ夏	市川恵里香
38 中秋の名月背負う法隆寺	宮　健太
39 水ぎわに見えては消える夕蛍	内田　文菜
40 ふうりんが静かにひびく祖母の家	小川　莉奈
41 通り雨めぐみのしずくかたつむり	金子　明史
42 ぶどう棚小さな粒が実る夏	中山　勇人
43 夏の海沈む夕日がつくる道	中嶋　淳也
44 夕暮れにとほうにくれた虹の橋	小川　泰弘
45 真夜中に光を放ち飛ぶ蛍	三森　香澄
46 風が吹き枯れ葉が落ちるヒラヒラと	河野　孝広
47 夕やけに染まるぶどうに手をのばす	内田　智也
48 雪だるま今年はいつまで生き延びる	辻　毅
49 秋の棚色とりどりの葡萄たち	高野　正峰
50 光る夜流れる星に目が光る	笠原　勇祈